

佐賀小学校 佐賀中学校

「人間を大事に」

「自他ともに大切にすること」

校長 清水 幸賢

◆はじめに

「小中一貫教育の推進」
今年度、佐賀小学校では、9名の新入生を迎え、全校児童64名、教職員16名でスタートしました。また、佐賀中学校では、13名の新入生を迎え、全校生徒46名、教職員19名でスタートしました。

佐賀小学校と佐賀中学校は、令和2年度の高知県教育委員会の研究指定時から、学校教育目標を統一したり、2校で1つの学校運営協議会を設置したりと、連携強化に取り組んできました。そして本年度、さらなる充実に向け、小中一貫教育を推進する学校としてスタートしています。

義務教育9年間を連続した教育ととらえ、児童生徒・学校・地域の実情を踏まえ、さまざまな取組の質を高めることをめざしています。

◆学校教育目標

学校
教育目標
「人間を大事に」
「自他ともに大切にすること」
「交流」



「交流」のもと、人権・同和教育を基本に据えながら、小学校と中学校が共通の願いや思いをもって取り組んでいます。ちなみに、この学校教育目標は、中学校では約30年引き継がれている目標です。

◆2校がめざす児童生徒像

- 学ぶ意欲をもち、自ら考え、主体的に判断し、行動できる児童生徒
- 自他の違いを認め、自他ともに大切にできる児童生徒
- ふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思い、ふるさとに貢献する児童生徒
- 困難に負けず、最後までやり抜く児童生徒

◆地域とともにある学校として

令和3年度から2校合同での学校運営協議会を立ち上げ、子どもたちの健やかな成長をめざし、学校、地域が一体となって子どもたちの成長を支援する取組を進めています。

今年度は、「あいさつ」「防災」「交流」を柱に取組を進めていくことを確認しました。

「交流」については、「地域とつながりがある学校」「地域の歴史や文化・仕事を学べる学校」「色々な体験ができる学校」「文化レベルUP」などの意見があり、学校としても総合的な学習の時間や学校行事などのなかで、積極的に「地域とつながる」「地域に出かける」ことを意識した教育活動を展開しています。そうした活動を支えてくださっている保護者や「さがっ子まもり隊」の方々はじめ、地域・各事業所の皆さんの協力、誠にありがとうございます。特に、7月、コ



となりました。また、学校・子どもたちが、保護者や地域の方々に温かく、力強く支えていただいていることを改めて実感した1日でした。ありがとうございました。

◆小学校・中学校がともに

教職員は、お互いに行き来して児童生徒の授業を受け持つことができるようになっており、さまざまなことに協力し合っており、取り組んでいます。



また、子どもたちの成長や学びに有効とされる異学年交流や小中合同行事などを増やしています。その一つとして、小学校で行っていた校内音楽発表会に中学生が参加し、小中合同音楽祭として開催します。11月19日(火)午後1時30分より小学校体育館で行いますので、子どもたちの歌声を聞きに来ていただければと思います。

大方中学校

「地域に根ざした学校」を
めざして

校長 宮崎 史和

今年度の大方中学校は、37名の1年生と転校生を迎え、現在122名の生徒が学校生活を送っています。

本校は、学校教育目標を「夢・志の実現、自立と挑戦」と設定しています。生徒が社会人となる2030年の社会は、先行き不透明で、変化の激しい時代と言われています。そのような社会においても、自らの人生を切り拓き、自己の夢や志を実現していつて欲しいと願い、この学校教育目標を設定し、教科のタテ持ちを通して、全教職員が全生徒を育てることをモットーに、日々の教育活動を行っています。

◆生徒の頑張りが人を動かす

本校では、学校教育目標達成に向けた学校経営理念を「人が育つ学校、大方中学校で学ぶことで、生徒が育つ。大方中学校で働くことで教職員が育つ学校」と

と設定しています。生徒たちは、大方中学校で仲間と協働しながら学ぶことを通して成長し、自らの夢・志が実現する力を身に付けられる学校をめざしています。そして、教職員は、生徒の夢・志の実現に向けて、自己の指導方法を工夫・改善していくことで、自らも成長していくことができる学校でありたいと願っています。

本校の1日は、部活動の朝練習から始まります。毎朝出勤して目にするのは、学年を越えひたむきに走っている生徒の姿です。毎日長距離を走り続けることは、決してたやすいことではありません。しかし、生徒たちは、互いに切磋琢磨しながら、懸命に走っています。この日々の練習を通して、走力だけでなく、目標達成に向かって努力することの大切さ、仲間とともに頑張ることの素晴らしさを学んでいます。そして、ひたむきな生徒の姿が、私たち教職員の「生徒たちのために、もっと頑張りたい」という思いを強くさせるなど、生徒の頑張りが私たち教職員

を動かしています。今後も、生徒と教職員が互いに高め合う関係を築き、さらに、本校の取組や生徒の姿が、地域の人々に元気を、そして地域に活力を与えられるよう、生徒とともに頑張っていきたいと思っています。

◆地域の一員として

本校の校区は、豊かな自然と温かい人たちに囲まれており、生徒は黒潮町のことが大好きです。昨年行ったアンケートでも、「今、住んでいる地域が好き」に対して、9割の生徒が肯定的に回答しています。しかし、自分の出身小学校区のこと



はよく知っていても、大方全体のことはよく知らないという実態がありました。そこで、今年度は総合的な学習の時間の見直しを行い、地域に足を運び、地域の「人・物・こと」にふれ、大方の良さや課題を理解するとともに、地域の一員として何ができるのか、何をすべきなのかを考える探究学習を行っています。1学期には、1年生は出身小学校区以外の地域に出向き、黒潮町の魅力を発見する学習、2年生は、校歌の冒頭にでてくる「仏が森」に登ったり、地域を探索したりしながら感じた素朴な疑問「町の電気屋さんなぜ服や靴を扱っているのか」や「黒潮町にタバコ栽培が多いのはなぜ?」、「黒潮町の空き家を少なくして活用したい」といった黒潮町に対する思いを出発点に、グループで探究しています。3年生は、「持続可能な黒潮町にするためには何が必要なのか。どうすればよいか」という問いの解決に向けて、一人ひとりがテーマを設定して探究活動を行っています。このような学習は、地域の方やお店、役場の方々の協力があつてこそ行えるものばかりであ

り、地域の方々が温かく関わり、支援していただいていることに心から感謝しています。



1学期に行ったアンケートの「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」に対する肯定的回答の割合は9割であり、昨年度より10ポイント以上上昇し、地域の一員として、地域の課題解決に参画しようとする意識が高まってきています。今後も、生徒の問いや疑問を大切に、生徒が主体的に学び進める授業をめざし、自分たちなりの解を見いだす力を育てるとともに、地域に根ざした学校となるよう教職員一同頑張っていきます。